

令和 6 年度 第 1 回 学校運営協議会 記録
(第 1 回学校関係者評価委員会 第 1 回校内コンプライアンス委員会)

- 1 日時 令和 6 年 6 月 18 日 (火) 午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで
- 2 場所 沼津視覚特別支援学校 会議室
- 3 出席者

(1) 学校運営協議員

東部社会教育振興協議会事務局長
特定非営利活動法人ティンクル副理事長
和太鼓奏者・本校卒業生
沼津ライオンズクラブ会長
三島市主任児童委員
本校 P T A



(2) 学校職員

校長 教頭 事務長 各部主事・主任 キャリア支援課長

4 会議の内容

- (1) 校長あいさつ、日程説明、自己紹介
- (2) 校内参観
- (3) 学校概要
- (4) 協議①令和 6 年度学校経営方針について
- (5) 協議②グループワーク「キャリア教育を進めていくために」
- (6) 協議③不祥事根絶に向けた本年度の取組について

5 会議報告

学校概要 (教頭)

- ・児童生徒数、障害別生徒数、通学方法別生徒数
- ・寄宿舎について (希望者は沼津聴覚寄宿舎利用)
- ・中部地区盲学校との交流 (親善球技大会) など他校との交流
- ・理解推進活動により生徒数増加

協議①令和 6 年度学校経営方針について

(校長) 今年の重点目標の説明

- ・視能訓練士からの助言をもらい、専門性の向上と指導の充実を図る。
 - ・卒業生の話や浜松視覚特別支援学校の見学などを通して将来のイメージをしやすくする。
 - ・必要な方に必要な支援が届くよう、夏休みに理解推進活動実施 (30 ヶ所程度)。
 - ・緊急時に対応できる職員の育成。
 - ・職員の勤務時間の意識向上をめざす。
- 障害のある人の性被害が多くある。性の話をタブー視せず、語る必要があると思う独自の取組があれば知りたい。
- ・教職員の意識を高め、自分も相手も大切にするという基本的な考えを押さえ、本校にあった指導を行っていきたい。

協議②グループワーク「キャリア教育を進めていくために」

- ・重点目標の一つのキャリア教育について、効果的に進めていくために、みなさんから意見をうかがいたい。

幼稚部小学部グループ 4 名

(小主事) 幼稚部小学部のキャリア教育と課題の説明

- 将来何になりたいか、具体的に答えられるだろうか。
- 親がいなくなっても生活できる力がつくといよ。
- 子どもをどう育てるとよいか。
- 早寝早起き、食事、身辺自立などの生活習慣を身につけたい。
- 食育、お弁当、保護者向けの栄養指導があってもよい。
- 学校で学んだことを家庭で経験を広げるよい。
- 家族での体験、経験。家族の変化(成長、老化)もある。
- 自分の好きなこと、興味のあることがわかるとよい。
- 災害に対する意識もつけていけるとよい。
- 何か将来、資格取得ができるとよい。



中学部グループ 5 名

(中主事) 中学部のキャリア教育と課題の説明

- 学校で子どもたちがわくわくする話をたくさん聞けるとよい。
- 卒業生の話を聞く機会を増やす。(楽しいこと、よかったこと、ポジティブに)
- 年齢を超えたつながり(和太鼓同好会、沼視保護者立ち上げのボッチャグループ)
- いろいろな事に感動する経験をつくる。
- 自分の行動が何かを生み、成果が出る手応えを積み重ねる。
- 学校生活でコミュニケーション力、他者への思いやり学ぶ。
- 日常を切り取った疑似体験(VRやバイノーラル録音の活用)

高等部グループ 4 名

(高等部主任) 高等部のキャリア教育と課題の説明

- 相手の反応・相手の受けた印象等をフィードバックし自己評価へつなげるとよい。
- 察して周りが動くのではなく、集団の中で自分から発信する経験を増やす。
- 集団の中でのコミュニケーション力。周りとうまくやっていく力が充実した生活につながる。
- 自分でできること、できないことの理解(支援されていることに気づき理解)
- 知らないこと、未経験のことに対する挑戦しようとする気持ち。
- 自分の状況の理解(経済面も含めて、現状を理解し必要な支援を一緒に考える)。
- 適切に支援を依頼でき、感謝の気持ちを持って人と接することができるとよい。

協議③不祥事根絶に向けた本年度の取組について

(教頭) 不祥事根絶に向けた取組年間計画の説明

- 教職員心得チェック表で「ちゃん」づけの項目があったが、学校では使ってはいけないのか。(→基本的に「さん」を使うようにしている。上から下に呼ぶ呼び方にとられる)

自立

子どもを
どう育てたい
か。家庭の
思い

将来
何になりたい
具体的に
答えられるか

親がいなく
なっても生活
できる力

生活習慣

生活習慣
栄養指導
(保護者向け)

早寝早起け
食事 身体
生活習慣

食育

お弁当

体験

家庭で
経験を
広げる

学んだことを
家庭にどう
広げるか

夏休みの
体験は？
キャンプ？

家族での
体験 経験

家族の
変化
成長・老化

学校教育目標『自立する人を育てる』

- ・《知》豊かな感性と考えをもつ人
- ・《心》他者と自分を愛する人
- ・《体》健康な体を保つ人
- ・逞しく自らの未来を切り拓く人
- ・必要な支援を依頼でき、
それに感謝できる人

自己理解
興味

資格

震災
災害意識

中学部

中学部卒業後の進路について

日常を切りとった疑似体験

VRや
バイノーラル録音
活用

学校教育目標『自立する人を育てる』

- ・《知》豊かな感性と考えをもつ人
- ・《心》他者と自分を愛する人
- ・《体》健康な体を保つ人
- ・逞しく自らの未来を切り拓く人
- ・必要な支援を依頼でき、
それに感謝できる人

進路選択の動機づけ

人とのつながり

出逢う、個人経験、
世代を超えての交流、
もてらる（受けとる）

わくわくする
話を
たくさん
聞く。

先輩・後輩、
仲間と関わる。



楽しいこと
よかったこと
ポジティブに

彼女の話

感動すること

年齢もまた
つながり

どうやってつながるか

和太鼓
同好会
部活↑

ボウチヤウ
グループ
部活の係り者で
つながる

保護者 地域社会
(学校関係の)
色んなことに関心、参
画させる環境を作る
「自分達の道への道標」

コミュニケーション能力
深める
他者への思いやり
↓
授業、学校行事等
でつなぐ

コロナ禍以降の
人と人とのつながり機会
を作る、続けていく

子ども自身の動機

自分の得意な事を
早く段階から
見つける

気持ちも
否定しない

好きなこと
やりたいことと
いっばい
増やす

なりたこと
とめない

自分がやることが
何かを生む実感

小さなことでも
海を渡るような
思いやり

失明→無感想

あきらめない
手応えを
感じる

学校生活
行事と
素直な育ち
コミュニケーション

見通し

「数年後はそこに居るのかも」

・好きなこと、やりたいこと、得意なこと
見つける

自分の行動が何を生む
成果が出る 積み重ね

高等部

自己理解 自己評価

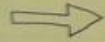
コミュニケーション
まわりと関わりあう力 → 充実感

学校教育目標『自立する人を育てる』

- ・《知》豊かな感性と考えをもつ人
- ・《心》他者と自分を愛する人
- ・《体》健康な体を保つ人
- ・逞しく自らの未来を切り拓く人
- ・必要な支援を依頼でき、
それに感謝できる人

相手の反応・相手の受けた印象等のフィードバック

相手の反応の
フィードバック



自己評価と
他者の評価
の差
(伝え)

他者の評価と対峙させ 自己理解へ

自分でできること、できないことの理解

自分の得意・不得意
を客観的に見る
(自分の強みや弱みの
気づき)

できていること → のほほ
支援されていること → 気づく
理解する

未知・未経験のことに対する意識

チャレンジ
できない
という意識

挑戦しようという気持ち
なぜできないのか 理解

※ 自分の状況の理解

主体的な
意識

経済状況 (生活保護受給者)
現状を把握し、必要は支援を
一歩一歩考えていく

1対1から 集団の中でのコミュニケーション

表情にも伝わる
人との関わり

人の話に
入ってくる
※ 名前を覚えて
話さずして

コミュニケーション
力
集団の中での

集団の中での個人
の指導
「察して察し動く」
この点

自己発信
「〇〇さん」
「〇〇さんにはいい」

支援に対する感謝の気持ち

支援されていることに
気づいていない
感謝の気持ち
はない

自分の支援体制
を知り
自分と比較
する

支援の仕組みを
体験してみる
「やってみてありがとうから下のこと
整理する、伝える」
「その時の支援者の反応も
フィードバック」

「ありがとう」
「ありがとうございます」
「ありがとう」

適切に支援を依頼できる
感謝の気持ちを持ち、人と
接することができる